



平成29年7月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成28年12月9日

上場会社名 株式会社エイチーム 上場取引所 東  
 コード番号 3662 URL <http://www.a-tm.co.jp/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 林 高生  
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 社長室長 (氏名) 光岡 昭典 (TEL) 052-747-5573  
 四半期報告書提出予定日 平成28年12月9日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成29年7月期第1四半期の連結業績(平成28年8月1日～平成28年10月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29年7月期第1四半期	7,136	54.8	293	△43.7	292	△40.8	138	△52.6
28年7月期第1四半期	4,610	44.0	520	6.3	493	△0.4	291	△11.3

(注) 包括利益 29年7月期第1四半期 138百万円(△52.6%) 28年7月期第1四半期 291百万円(△10.9%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
29年7月期第1四半期	7.31	7.28
28年7月期第1四半期	15.47	15.38

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
29年7月期第1四半期	9,311	5,113	53.8
28年7月期	9,586	5,072	51.9

(参考) 自己資本 29年7月期第1四半期 5,013百万円 28年7月期 4,971百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
28年7月期	—	5.00	—	7.50	12.50
29年7月期	—	—	—	—	—
29年7月期(予想)	—	5.00	—	15.00	20.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成29年7月期の連結業績予想(平成28年8月1日～平成29年7月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	14,800	47.5	300	△54.9	300	△50.5	180	△41.7	9.52
通期	32,000	39.3	3,300	49.1	3,250	55.2	2,150	66.3	113.74

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無  
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)  
新規 一社(社名) 、除外 一社(社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数(四半期累計)

29年7月期1Q	19,452,400株	28年7月期	19,450,000株
29年7月期1Q	548,620株	28年7月期	574,020株
29年7月期1Q	18,893,851株	28年7月期1Q	18,831,854株

(注) 1株当たり四半期純資産額の算定に用いられた四半期末の普通株式の数および一株当たり四半期純利益金額の算定上の基礎となる期中平均株式数については、「株式付与ESOP信託」及び「役員報酬BIP信託」制度において、日本マスタートラスト銀行株式会社(株式付与ESOP信託口及び役員報酬BIP信託口)が保有する株式を控除対象の自己株式に含めて算定しております。

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期連結財務諸表に対する四半期レビュー手続は終了しております。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信(添付資料)4ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	5
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	5
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	5
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	5
3. 四半期連結財務諸表	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	10

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

国内のインターネットを取り巻く市場は、インターネットの利用者数が平成27年末時点で推計1億46万人、インターネット利用者の割合は前年と同じ83.0%となりました（総務省の平成27年「通信利用動向調査」平成28年7月公表）。

モバイルビジネスを取り巻く環境につきましては、平成28年3月末時点のスマートフォン契約数が7,715万件（端末契約数の59.9%）となり、スマートフォン契約数は2018年度に1億件に達する見通しであります（MM総研「2016年度上期 携帯電話端末出荷と契約数の推移・予測」平成28年11月公表）。

このような状況の下、当社グループでは、平成28年8月より、EC事業をライフスタイルサポート事業から切り出し、単独セグメント化しております。これにより、当社グループの事業セグメントは「エンターテインメント事業」、「ライフスタイルサポート事業」、「EC事業」の3つになります。

エンターテインメント事業では継続して新規スマートデバイス向けゲーム開発に取り組みながら、既存ゲームの機動的な運用を進め、過去最高のセグメント売上を達成いたしました。

ライフスタイルサポート事業では各サービスのユーザビリティの向上等更なる充実に注力し、それぞれの産業領域におけるマーケットシェアの拡大及び安定的な成長に向けて取り組み、過去最高のセグメント売上を達成いたしました。

EC事業では中長期目標に沿って引き続きフルフィルメント（注）の強化に取り組んでまいりました。

その結果、過去最高の四半期売上を達成いたしました。なお、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益につきましては、主にエンターテインメント事業における積極的な広告投資や認知度向上・人材獲得のための投資等の一時的な要因により、前期比で減少しました。

（注）フルフィルメントとは、ネット通販における受注管理、在庫管理、ピッキング、商品仕分け・梱包、発送、代金請求・決済処理等、通販ビジネスで最も重要なコアプロセス全般を指します。また、苦情処理・問い合わせ対応、返品・交換対応等のカスタマーサポートや顧客データ管理等の周辺業務も含まれます。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間における売上高は7,136,422千円（前年同四半期比54.8%増）、営業利益は293,414千円（前年同四半期比43.7%減）、経常利益は292,420千円（前年同四半期比40.8%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は138,189千円（前年同四半期比52.6%減）となりました。

当連結会計年度におけるセグメント別の業績は次のとおりであります。

なお、当第1四半期連結会計期間より、報告セグメントの区分を変更しており、以下の前年同期比較については、前年同期の数値を変更後のセグメント区分に組み替えた数値で比較しております。

## &lt;エンターテインメント事業&gt;

エンターテインメント事業では、主にスマートデバイス（スマートフォン及びタブレット端末）向けゲームやツールアプリの企画・開発・運営を行っております。

ゲームアプリにつきましては、平成28年6月9日にリリースし、6月23日より課金開始した「ヴァルキリーコネクト（Valkyrie Connect）」（至高のハイファンタジーRPG）が3ヵ月寄与し、好調に推移しました。また、平成26年12月にリリースした「ユニゾンリーグ（Unison League）」（新感覚リアルタイムRPG）がTVCM及びコラボイベントが功を奏し、好調に推移しました。これにより、エンターテインメント事業は、過去最高のセグメント売上を達成いたしました。なお、セグメント利益につきましては当該TVCMの放映等による広告宣伝費の増加により、前年同四半期比で減少しました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間における売上高は4,089,963千円（前年同四半期比75.5%増）、セグメント利益は302,223千円（前年同四半期比45.0%減）となりました。

<ライフスタイルサポート事業>

ライフスタイルサポート事業では、ライフイベントや日常生活に密着した比較サイト・情報サイト等、有益な情報を提供する様々な便利なウェブサービスの企画・開発・運営を行っております。

サブセグメント事業については、引越し関連事業「引越し侍」、自動車関連事業「ナビクル」が日々のサイトの改善、プロモーション活動などにより順調に利用者を増やし、継続して業界トップクラスのシェアを維持しております。

ブライダル関連事業の主要サービスである「すぐ婚navi」は、更なるサービスの拡大成長を遂げるべく、平成28年11月8日をもちまして、サービスブランドを「ハナユメ」へ変更いたしました。

「ハナユメ」を中心としたブライダル関連事業は、全国6エリアに12店舗のウェディングデスクを展開し、「ハナユメ定額ウェディング」や「ハナユメフォト」等のブライダル周辺サービスを拡充しながら、サービスの品質向上に努め、継続的に利用者数を伸ばしております。「ナビナビキャッシング」を中心とする金融メディア事業は同業他社と競争が激化する中、引き続き利用者数を伸ばしております。このようにライフスタイルサポート事業は安定的かつ継続的な収益向上に取り組み、過去最高のセグメント売上を達成いたしました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間における売上高は2,652,650千円（前年同四半期比28.4%増）、セグメント利益は369,824千円（前年同四半期比1.9%増）となりました。

<EC事業>

EC事業では、大型商材のEC化に本格参入し、自転車通販サイト「cyma-サイマ-」の運営を行っております。

EC事業においては、ウェブサイトのユーザビリティの向上等を進めながら、引き続きフルフィルメントの強化に注力し、順調に販売台数を伸ばし、過去最高の四半期売上を達成いたしました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間における売上高は393,808千円（前年同四半期比83.6%増）、セグメント損失は34,852千円（前年同四半期は43,147千円の損失）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

① 資産

当第1四半期連結会計期間末における総資産は9,311,807千円となり、前連結会計年度に比べ275,192千円減少いたしました。これは主に無形固定資産の増加72,407千円があったものの、現金及び預金の減少132,703千円及び受取手形及び売掛金の減少242,778千円によるものであります。

② 負債

当第1四半期連結会計期間末における負債は4,197,954千円となり、前連結会計年度に比べ317,036千円減少いたしました。これは主に短期借入金の減少96,000千円、未払金の減少112,606千円及び未払法人税等の減少177,758千円によるものであります。

③ 純資産

当第1四半期連結会計期間末における純資産は5,113,852千円となり、前連結会計年度に比べ41,843千円増加いたしました。これは主に自己株式の減少44,972千円により増加したものであります。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当社グループは中長期的な成長に向け、平成29年7月期において人材獲得・人材育成及び環境整備・組織体制の構築に注力してまいります。これに伴い、人員の増加を見据え、本社オフィスの増床及び企業認知度向上のためのプロモーション等を実施する予定であります。

セグメント別業績の見通しは次のとおりであります。

「エンターテインメント事業」におきましては、「放課後ガールズドライブ」等新規タイトルのリリース、「ヴァルキリーコネクト」の海外展開並びに既存タイトルの効率的な運用に取り組んでまいります。業績については、リリース前のタイトルの収益貢献を保守的に、既存タイトルは現時点で想定できる費用を織り込みつつ、直近のKPI推移を踏まえ、予想しております。

「ライフスタイルサポート事業」におきましては、サブセグメントとなる引越し関連事業、自動車関連事業、ブライダル関連事業、金融メディア事業それぞれにおいて、利用者数の増加、利用者1人当たり売上高の向上並びに利益率の向上を図りながら、サービス間の相互送客・継続顧客の獲得に注力してまいります。また、引き続き各サブセグメント事業の周辺サービス及び新たな産業領域におけるビジネスの開拓に取り組んでまいります。業績については、各サービスの収益力、各KPIの状況を踏まえ、季節要因等現時点で想定可能な影響要因を加味して予想しております。また、一部サービスにおいて、ブランド認知度向上のための先行投資を予定しておりますが、それらの費用は十分に織り込み、収益貢献は中長期スパンで想定しております。新規サービスについては、現時点で想定可能な範囲内で費用を織り込んでおります。

「EC事業」におきましては、中長期的な成長に向け、黒字化よりもフルフィルメントの強化を優先する予定であります。業績については、組織基盤・体制を整えるための継続投資費用を十分に織り込み、収益貢献は足元のKPIを踏まえつつ、季節要因等を加味しながら想定可能な範囲内で合理的に予想しております。

なお、エンターテインメント事業において、第1四半期に「ユニゾンリーグ」のTVCMや「ヴァルキリーコネクト」のプロモーションを実施しました。第2四半期には事前登録受付中の新規タイトル「放課後ガールズドライブ」において、TVCM等先行投資や「ヴァルキリーコネクト」の海外展開において広告投資を行う予定です。また、ライフスタイルサポート事業及びEC事業においては、引き続きブランド認知度向上のための広告投資を想定しております。ライフスタイルサポート事業及びEC事業はビジネス特性上、例年第3四半期が繁忙期であり、下期での収益貢献を上期より多く見込んでおります。そのため、当社グループの営業利益・経常利益・親会社株主に帰属する当期純利益は前第2四半期連結累計期間比で大幅に減少する見込みであり、利益貢献は下期に高い割合を占める結果となる見込みであります。

第2四半期以降の業績見通しにつきましては不確定要素が多いため、本資料発表日現在において、業績予想の修正はありません。

なお、上記の将来に対する記述、以下の業績予想数値は本資料発表日現在において当社グループが入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後の様々な要因により変動する可能性があります。

平成29年7月期 第2四半期業績見通し（平成28年8月1日～平成29年1月31日）

売上高	14,800百万円	（前第2四半期連結累計期間比	47.5%増）
営業利益	300百万円	（前第2四半期連結累計期間比	54.9%減）
経常利益	300百万円	（前第2四半期連結累計期間比	50.5%減）
親会社株主に帰属する当期純利益	180百万円	（前第2四半期連結累計期間比	41.7%減）

平成29年7月期 通期業績見通し（平成28年8月1日～平成29年7月31日）

売上高	32,000百万円	（前連結会計年度比	39.3%増）
営業利益	3,300百万円	（前連結会計年度比	49.1%増）
経常利益	3,250百万円	（前連結会計年度比	55.2%増）
親会社株主に帰属する当期純利益	2,150百万円	（前連結会計年度比	66.3%増）

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の適用

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)を当第1四半期連結会計期間から適用しております。

## 3. 四半期連結財務諸表

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成28年7月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成28年10月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	3,505,060	3,372,356
受取手形及び売掛金	2,724,573	2,481,794
たな卸資産	156,013	167,938
その他	539,375	532,857
貸倒引当金	△6,181	△6,451
流動資産合計	6,918,840	6,548,495
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	1,043,466	1,011,816
その他(純額)	278,248	263,454
有形固定資産合計	1,321,715	1,275,271
無形固定資産	622,008	694,415
投資その他の資産		
投資有価証券	106,929	160,919
敷金及び保証金	453,190	521,501
その他	169,100	115,399
貸倒引当金	△4,784	△4,195
投資その他の資産合計	724,435	793,624
固定資産合計	2,668,159	2,763,311
資産合計	9,586,999	9,311,807
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	192,431	155,526
短期借入金	1,166,000	1,070,000
未払金	2,115,955	2,003,348
未払法人税等	297,129	119,371
販売促進引当金	4,173	2,741
株式給付引当金	39,369	—
役員株式給付引当金	5,602	5,602
その他	306,807	453,028
流動負債合計	4,127,470	3,809,619
固定負債		
資産除去債務	387,520	388,334
固定負債合計	387,520	388,334
負債合計	4,514,990	4,197,954
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	535,045	535,171
資本剰余金	508,845	508,971
利益剰余金	5,149,852	5,146,472
自己株式	△1,222,534	△1,177,562
株主資本合計	4,971,208	5,013,052
新株予約権	100,800	100,800
純資産合計	5,072,008	5,113,852
負債純資産合計	9,586,999	9,311,807

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成27年8月1日 至 平成27年10月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成28年8月1日 至 平成28年10月31日)
売上高	4,610,800	7,136,422
売上原価	763,276	1,105,177
売上総利益	3,847,524	6,031,245
販売費及び一般管理費	3,326,668	5,737,830
営業利益	520,855	293,414
営業外収益		
受取利息	283	181
投資事業組合運用益	—	4,638
その他	776	5,442
営業外収益合計	1,059	10,262
営業外費用		
支払利息	1,630	1,016
金銭の信託運用損	24,224	—
為替差損	1,722	6,026
固定資産除却損	488	3,722
その他	311	490
営業外費用合計	28,377	11,255
経常利益	493,538	292,420
特別損失		
減損損失	4,832	—
特別損失合計	4,832	—
税金等調整前四半期純利益	488,705	292,420
法人税等	197,317	154,231
四半期純利益	291,388	138,189
親会社株主に帰属する四半期純利益	291,388	138,189

## 四半期連結包括利益計算書

## 第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成27年8月1日 至平成27年10月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成28年8月1日 至平成28年10月31日)
四半期純利益	291,388	138,189
四半期包括利益	291,388	138,189
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	291,388	138,189

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自平成27年8月1日至平成27年10月31日)

## 1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
	エンターテインメント事業	ライフスタイルサポート事業	EC事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	2,331,103	2,065,189	214,507	4,610,800	—	4,610,800
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	2,331,103	2,065,189	214,507	4,610,800	—	4,610,800
セグメント利益又は損失(△)	549,498	363,051	△43,147	869,402	△348,546	520,855

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△348,546千円は、報告セグメントに帰属しない全社費用であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自平成28年8月1日至平成28年10月31日)

## 1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
	エンターテインメント事業	ライフスタイルサポート事業	EC事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	4,089,963	2,652,650	393,808	7,136,422	—	7,136,422
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	4,089,963	2,652,650	393,808	7,136,422	—	7,136,422
セグメント利益又は損失(△)	302,223	369,824	△34,852	637,195	△343,781	293,414

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△343,781千円は、報告セグメントに帰属しない全社費用であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

## 3 報告セグメントの変更等に関する事項

当社グループは迅速かつ確かな意思決定を行う体制の構築と業務の効率化を図るため、EC事業本部を新設する組織変更をいたしました。これに伴い、従来「エンターテインメント事業」「ライフスタイルサポート事業」としていた報告セグメントの区分を、「エンターテインメント事業」「ライフスタイルサポート事業」「EC事業」に変更しております。

なお、前第1四半期連結累計期間のセグメント情報は、当第1四半期連結累計期間の報告セグメントの区分に基づき作成したものを開示しております。